

事務事業名 雲南市教育支援センター運営事業 (NPO法人との協働による不登校対策支援)		所属部 教育委員会	所属課 キャリア教育推進室
総 計 画 体 系	政策名 (IV)ふるさとを学び育つまち<教育・文化>	所属G キャリア教育推進G	課長名 飛田 博志
	施策名 (27)学校教育の充実	担当者名 加本 玲可	電話番号 0854-40-1073 (内線) 2243
	目的 対象 児童・生徒	意図 基礎基本(知・徳・体)の発達を促し、生き抜く力 を身につける。	予算科目 会計 款 大事業 大事業 0 1 5 0 0 3 事業名 項 目 中事業 中事業 0 5 1 0 2 8 事業名
	基本事業名 (083)困難さを抱える児童生徒への支援の充実	意図 個に応じた教育・支援を受ける。	
目的 対象 児童・生徒	意図 個に応じた教育・支援を受ける。	教育推進事業 28)おんせんキャンパス運営事業	

1 現状把握【00】

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (27年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
不登校の児童生徒の学習の場である「おんせんキャンパス(旧温泉小学校)」において、学習指導員を配置し学習支援を行うなど、施設における学習環境の充実に努める。 なお、質の高い教育の提供に向け、認定NPOへの業務委託方式による運営を図りながら、あらたな不登校対策支援の体制を確立する。

(2) 事務事業の手段・指標

① 主な活動					
30年度実績(30年度に行った主な活動)	元年度計画(元年度に計画する主な活動)				
●教育支援センター(現地) 認定NPOへの業務委託(臨床心理士配置) 学習支援、体験活動支援、カウンセリング、保護者相談業務、家庭訪問、施設管理 ●本庁 契約事務、入級申請事務、運営に関する予算執行事務など ※施設運営体制 受託者 5人 雲南市 3人(指導員2、家庭訪問1)	●教育支援センター(現地) 業務内容は同左 R1年度は学校訪問・家庭訪問等のアウトリーチ活動を重点的に行う。 ●本庁 以上は、左記同様 ※施設運営体制 受託者 6人 雲南市 2人(指導員)				
② 活動指標	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度 (計画)
ア 訪問指導回数	回	217	224	235	235
イ ワーキング会議	回	24	24	24	24
ウ					
エ					

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度 (計画)	
	①不登校児童 ②不登校生徒		ア 不登校児童(小学生)	人	16	26	25	15
			イ 不登校生徒(中学生)	人	37	29	39	30
			ウ 利用者(小中学生) 利用者(高校生)	人	20 (5)	32 (4)	35 (3)	35 (3)
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (実績)	元年度 (計画)		
個々の実態に合わせた支援により、学校での生活や学びに意欲をもってもらう。最終的には学校復帰を目指す。	ア 登録者(小中学生) 登録者(高校生)	人	14 (3)	22 (0)	20 (0)	22 (3)		
	イ 登録者のうち学校復帰及び進路実現できた割合(翌年度当初)	%	94.1	86.4	75.0	80.0		
	ウ							

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳(30年度決算)	② コストの推移	単位	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(計画)	
・報酬 4,080千円、・消耗品費 57千円 ・燃料費 390千円、・光熱水費 1,051千円 ・修繕費 5千円、・通信運搬費 149千円 ・保険料 16千円、・委託料 19,337千円 ・使用料 76千円、・賃借料 782千円 ・公課費 6千円	財源内訳	国庫支出金	千円	10,331	10,779	9,669	12,630
		県支出金	千円				
		地方債	千円	4,000			
		その他	千円	3,811			19,215
		一般財源	千円	11,453	18,190	16,280	
		事業費計(A)	千円	29,595	28,969	25,949	31,845
		人件費	人	2	2	2	
	正規職員従事人数	人	2	2	2		
	延べ業務時間	時間	480	384	400		
	人件費計(B)	千円	1,904	1,566	1,733		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	31,499	30,535	27,682		

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
雲南市総合戦略に、質の高い教育の提供に向けた取り組みが掲げられ、認定NPOとの連携・協働を軸とした推進体制の構築に向けて始動した。不登校をはじめ個別の支援が必要な児童・生徒の増加が社会的課題となっている。	H28年度より、専門的な支援を図るために、臨床心理士資格を有する者(受託者による)を配置したところである。また、高校生年代の受入を可能とするために、フレンドクラスを開設したところである。H30年度は未然防止として別室登校支援など訪問支援に力を入れた。	保護者:保護者間のネットワークづくりなどの取り組みを含めて評価する声をいただいている。議会、学校:きめ細かい対応に対して評価する声をいただいている。その他:市外からも通室を希望する声をいただいている。

事務事業名	雲南市教育支援センター運営事業 (NPO法人との協働による不登校対策支援)	所属部	教育委員会	所属課	キャリア教育推進室
-------	--	-----	-------	-----	-----------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があると理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合 →	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？		
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →	
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	個々の状態も大きく違うなかではあるが、非常に高い現状値であるためこれ以上の向上余地はない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない		
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有		
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある *ある場合 → (具体的な手段や類似事業名)	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない	
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない		
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	
D 公平性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	<input type="checkbox"/> 削減余地がない	
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	
評価の 総括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
C 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
			あらたな体制での取り組みがスタートして4年が経過した。これまでの模索状態から、施設として一定の流れが確立できてきている。H30年度は中学校の別室登校支援を行い一定の成果があった。また、学校教育課と共に不登校対策ガイドラインを作成し、学校の早期対応や支援に必要な機関との連携等について具体的な支援策を示した。

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																		
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×
	コスト																		
	削減	維持	増加																
成果	向上																		
	維持	●	×																
	低下	×	×																
<p>学校からの信頼関係が構築され、受入児童生徒数が増え学校への復帰率も高く、事後対応としての不登校対応は年々成果が上がっている。また、家庭訪問の充実や保護者会の定期的な開催などにより、保護者からの信頼も高い。今後は未然防止を図るため、H30年度に作成した「不登校対策ガイドライン」の有効に活用していく。また、別室登校への支援や家庭訪問の強化など、長期化させない対策を講じていく。こうした取り組みにより、強化する部分に人員を充てるなど、効率的な人員体制や役割分担の確立を行っていく。</p>	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																		